



上尾ロータリークラブ



2010-11年度テーマ
地域を育み、大陸をつなぐ



第2374回 例会

2010.11.18

週報 No. 1869
発行 2010年11月25日

会長あいさつ

大塚崇行 会長

会長 大塚崇行
幹事 島村 健
副会長 名取 勝
副幹事 関口和夫
編集責任者・
クラブ広報委員長 岡澤清勝

ゲスト
東京消防庁第二消防方面本部
消防救助機動部隊 部隊長
下山 正敏様

行事予定
12月2日 卓話
12月9日 結婚・誕生祝い(理事会)
12月16日 卓話
12月23日 天皇誕生日(年次総会に振替)
12月24日 年次総会
クリスマス例会
12月30日 定款の規定により休会

今日は東京消防庁、消防救助機動部隊、ハイパーレスキューの部隊長である下山正敏さんにお越しいただき、「消防力」というお題で卓話を頂きます。大変楽しみにしております。よろしくお願ひ致します。

さて、先週末は地区大会が行われまして多くの方にご参加を頂きありがとうございました。一日目の本会議ではご案内した通り、昨年の地区大会ホストクラブという事で細野直前会長が表彰され、また、地区功労賞として川島地区幹事、富永地区会計、武重地区大会顧問、吉川地区大会委員長、尾花地区大会実行委員長、加藤地区大会幹事のそれぞれに送られ、また、RI会長賞「会員増強・拡大賞」という事で、大塚直前ガバナーが表彰をされました。

また、講演会では元NHKキャスターの松平定知(さだとも)さんの話も大変面白く「皇后の奇夢」という日露戦争開戦直前の昭恵皇后の夢に坂本竜馬が立ったという話をしまして、急遽の時間短縮にも関わらず、時間ぴったりで話を終え、さすが時代と時間に合った話をするなと感心を致しました。

本日のブックマークは、私の仕事にも通じている、日常語に含まれている大切な仏教思想ということで3つの言葉を紹介させて頂きます。先ず一番初めが「ありがとう」です。この言葉は日本語で一番美しい言葉と言われています。私たちが生きていく上では天地自然の恵みや他の人の支えがなくては生きていけません。そうした全ての事に感謝していく仏教的生き方が極めて大切であるという事です。

次に「おかげさま」です。文字通り陰の力、目にははっきり見えない力ということ。地区大会の成功も正におかげさまの力という事でしたが、私たちが今生きていられるのは、一人一人がピラミッドの最長点にいるようなもので、その裾野は限りなく広く深い底面を持っており、そのほとんど全ては陰の力であると受け止めれば、人や物に対する見方、考え方が仏法で言うところの報恩謝徳の精神となって生きる方向が定まってくるという事です。

最後は「すみません」です。一般的には相手に対して謝る時やお礼を言う時、頼むときなどに使われますが、仏教思想としては、私たちは

AGEO ROTARY CLUB

万物の限りない恵みや他の生命や、他の人々、自らを取り巻く一切のものの支えや縁によって存在しておりますが、そうした大きな恩になかなかお返しする事ができません。微力な自分で申し訳ありませんという謙虚な心と、今後出来るだけ世の為に励んでまいりますという積極的な心構えを示す言葉でもあります。

この「ありがとう」「おかげさま」「すみません」と、三つの言葉が素直に出るような人間になりたいと思いますし、本日卓話を頂く下山さんは正にこの「ありがとう」「おかげさま」そして「すみません」と言われる最たる職業の方であるかと思えます。下山さんの話を聞いて、私も職業奉仕に励んでいく力を頂ければと思っております。それでは、以上で会長挨拶を終わります。本日の例会もよろしくお願ひ致します。

会員を増やせるように皆様のご協力よろしくおねがいます。

卓話

東京消防庁第二消防方面本部 消防救助機動部隊 部隊長 下山正敏様

私が本日お話しさせていただく「消防力」についてお話ししたいと思います。まず、最初に消防の組織のお話をさせていただきます。



消防は市町村消防が基本です。昭和23年に施工された消防組織法の中に市町村はその区域内における消防の責任を負うという条文があります。上尾市消防本部があるように市で消防の責任を負うことになっております。上尾市で起きた火災、救助、水害、震災、危険物の確認など様々な仕事があるのですが、これらを市が責任を持って行うという条文です。また、市境については消防相互応援協定というのがあります。例えば桶川市から火災が起こって上尾市に燃え移った時、桶川の消防と上尾の消防が出動して協力して対応することになっております。私が勤務しているのは東京消防庁で名前は立派ですが、組織として上尾市消防本部と対等でございます。東京消防庁は東京都23区を担当しております。東京都には現在26市3町1村あります。今年の4月に東久留米市が東京消防庁に事務委託しまして東京消防庁としては81番目の消防署が誕生いたしました。東京消防庁の名前の由来ですが、昭和23年に消防組織法が施工された時に、GHQの影響力が強くあつて警察と消防は対等であるという考えの下で東京警視庁に対して東京消防庁という名前になりました。東京消防庁の組織力は81の消防署を抱えて職員数は1万8千人います。この人数で東京都内を3交代で守っています。

つづいて平成7年1月17日に起きたマグニチュード7.3の阪神淡路大震災についてお話ししたいと思います。この地震は都市直下地震でした。この地震での被害についての最終報告では、亡くなられた方が6434名、負傷者4万3792名、建物全半壊が24万

幹事報告

関口 和夫副幹事

- ◆11月25日に上尾ロータリークラブゴルフコンペ行います。
- ◆2011年1月10日インターミーティングが鴻巣文化センタークレア鴻巣の大ホールで行われます。併せて韓国訪日団歓迎会も開催いたします。
- ◆大塚直前ガバナーよりロータリー財団にベネファクターとして2000ドルのご寄付をいただきました。

委員長報告

会員増強維持委員会 須田悦正委員長

11月15日に上尾の基にて会員増強維持委員会を行いました。多くのご参加をいただきありがとうございました。当日は活発な意見が飛び交い会員一人一人が上尾ロータリークラブの未来を真剣に考えていると思えました。私個人としては今年度最低1名会員を増やしますと宣言しましたので、しっかりとその約束を守るために一生懸命やっけていきたいと思います。1人でも多くの



9180棟で大変な災害でした。東京消防庁ではこの災害に対し応援に行かなければいけないと判断しヘリコプターに先遣隊を乗せ神戸に向かいました。先遣隊から情報が入る前にテレビ映像等で、高速道路が倒れ、ビルが潰れた状況を見てもっと応援の人数が必要だと感じていました。その後20台の消防車が高速を使って有馬の方から神戸に向かいました。私は羽田から飛行機で伊丹空港に入り伊丹空港から、先遣隊と合流し神戸市に入りました。私はまず神戸の灘区というところに向かいました。灘区では消防署自体がもう潰れかけている危険な状態で灘消防署の管轄区域で救助活動に入りました。最初は油圧で広げたり、持ち上げたりしてトンネルを作ってそこにつかえ棒を入れトンネルの中に入って救助してくる活動をしたいました。救助活動を続けていると燃料が無くなってきて最終的には予備の燃料も無くなってしまい人力でやるしかない状況になってきました。車のジャッキやノコギリを使って活動をしました。そうするとノコギリは使っているとそのうち斬れなくなってきて我々は普段ノコギリを使い慣れていますから、ノコギリが斬れなくなるという考えがなくヤスリ自体も持っていませんでした。斬れないノコギリでがんばっていたら建築関係の人がきまして見るに見かけて目立てをしていただき随分助かりました。その後も人命救助を続けておりました家の崩れ方によってはクレーン車なればかなり時間が掛かる状況になった時、灘の対策本部に無線で時間が掛かるという報告をしてクレーン車を回してくれと連絡したのですが、そんなすぐに用意できないから次の現場に向かってくれという命令が下りました。そして、家族に申し訳ないが時間が掛かるので次の可能性のある現場に行かせてくださいと説明をしますとそうするとやはり家族の方は納得してくれませんが、我々レスキュー隊もそこに助けを求めている人がいるのに現場を離れるということは一度もありませんでした。レスキュー隊は最後の砦だということで我々があきらめた段階で、そこに居る人の生存は無いという教えだったので現場を離れるということはとても辛かったです。今でも悔しいですし目頭が熱くな

ります。それでも家族にごめんなさいと説明をして逃げるようにその現場を離れました。あとで聞いた話ですが、神戸のレスキュー隊は一つの現場に9時間掛けて救出したそうです。9時間掛けて救出したのが、正解だったのかと言いますと正解も不正解も無く彼らは地元だから現場を離れることができませんでした。我々は東京から来ていますので終われば東京に戻れるという気持ちもありましたが、神戸の隊員からしてみれば子供から知っている人たちがいるのでそこで離れて見捨ててしまうことは出来ませんでした。その後しばらくしてからクレーン車が与えられました。重機を持ってその現場にいけますといとも簡単に屋根をどかせて救出も簡単にできるようになりました。時間が掛かるとあきらめて現場をはなれたあの時に重機があれば悔しい思いをしなかったのにと今でも思います。逃げ遅れた人の救出活動はほぼ終わり今度は端から一軒一軒となり近所でまだ身元を確認出来ていない人がいないかを探しました。その時、住民から本気で怒られました。実際その当時消防団員が投石されたり殴られたりしたこともあったそうです。やはり消防が火を消すことや人の救助出来なかった訳ですから住民の怒りは消防に向けられていました。今話を聞いている人には消防だってちゃんとやっているのではないのか？とわりとひいき目してくれると思うのですが、実際に被害にあった家族からしてみれば冗談じゃないという感情になるのは当然でした。やはり消防は皆さんが思っているほど強くはないです。家が一軒二軒燃えるような火災であれば消防に任せてくださいと言えるのですが、ちょっと大きな災害になったら消防なんかなんも役に立たないということを伝えたくて本日は来ました。ここで皆さんに伝えたいのは「自助と共助」です。まずは自分の身・家族の安全を守る環境を作ってほしいです。そして、自分の身・家族が大丈夫だったらとなりの家を助けてあげてください。消防の立場からこの「自助と共助」をお願いしたいと思っております。阪神淡路大震災で全国消防全ても手上げの状況だったので、これを教訓に東京消防庁は翌年消防救助機動部隊を作りました。これはレ

レスキュー隊員がクレーン車の資格を取って重機のオペレータをやり自分達が自由に使える重機を持っており大きな災害に対応する部隊を作りました。この部隊が国内外で活躍したのがクローズアップされて色々評価を得ているところです。記憶に新しいのは新潟の地震の時にがけ崩れで白い車が巻き添えになって70時間後に子供が救出された時、救助を行ったのは東京消防庁の消防救助機動部隊です。その後、消防も勉強いたしまして緊急消防援助隊という部隊を作りました。阪神淡路大震災の時は東京も独自の判断でこれは応援にいかねばいけないだろうと思ひ独自の判断で出動しました。各消防本部が独自の判断で現場に向かい現地の消防の指揮下のもとで活動はしたのですが、ポンプ車1台救急車1台いっても思うような活動が出来なかつた為、県単位で応援部隊を作りました。それが緊急消防援助隊です。各消防本部が各都道府県にいざ災害が起こった時、何台何名が出動できるか登録をしておきます。上尾でもポンプ車2台救急車1台人員13名がいざという時に緊急援助隊で埼玉県隊として出動することになっております。実際に新潟の時や宮城の時に埼玉県隊も出動しております。緊急援助隊は食べる物、寝るところ、燃料全て自己完結型で対応しておりますので、どこの消防本部も市の一般財形、交付税で消防は賄われておりますので余裕はないです。市内での火災には対応できるのですが、それ以上の余力は何処の消防本部も持ってないのが実情です。実際に登録したけど災害派遣には行けないという消防本部があったのでこれではいけないと感じ今は総務省の予算で緊急援助隊は賄われております。全国に800の消防本部があるのですが、97%の消防本部が登録をしております。緊急援助隊が出来たのがやはり阪神淡路大震災のおかげというところがあるのですが、全国の消防が一つになればと思っております。緊急援助隊が出来たといつてもすぐ来てくれる訳ではありません。やはり自分の地元は自分で守るという「自助と共助」

の精神でどうか皆さんのお力でまずは自分と家族を守って隣近所を守って欲しいです。その後のことは消防にお任せしていただければと思っております。本日はありがとうございました。



卓話ありがとうございました。

出席	会員数	40	出席数	20
欠席	欠席数	20	(%)	50

前々回確定 欠席数
修正 (%) (M・U)

スマイル 27,000円

- 大塚会長 下山様卓話ありがとうございました。今週末上尾シティアラソン頑張ります。
- 名取副会長 東京消防庁部隊長下山正敏様卓話ありがとうございました。
- 関口副幹事 卓話ありがとうございました。
- 大塚直前ガバナー 下山様卓話ありがとうございました。
- 尾花会員 結婚・誕生祝いありがとうございました。

吉川会員 久保田 会員 富永会員 加藤会員 村岡会員 富岡会員
竹内会員 井上(浦) 会員 藤村会員 神田会員 横山会員 須田会員
渡邊会員 宇多村 会員 齋藤(哲) 会員

